小春学院・インスタライブ（2024 年 4 月 13 日）セミナー資料

「入試問題この１問！ 2024 年度武蔵中学校」

■問題構成と所感

問題構成は大問1の文学的文章、大問2の漢字の書き取り（8問）のみ。大問1は文中での語句の意味の確認（選択問題）が3問と本文の理解を確かめる記述問題が5問で構成されています。

大問1の文章は大正時代の北海道を舞台とした島木健作の小説で、使われている語彙や、場面設定としては児童には読みにくさはあるのかもと心配されるかもしれませんが、実際に読むと、現代にも通じる内容であるので、解答作業はさほど難しくないでしょう。

■解答作成

「敵愾心」の部分は文章中に、桜田への競争心が文章の最後から3段落目に記されている（「敵愾心」という言葉が初めて記されている段落に着眼！）。ここに「私はもっともたまらなく切ない競争心」とあるので、そのことに触れるような内容を書く。

「拍手を送らずにはいられぬ気持」については、文章の最後から2段落目には彼女の出自、最終段落の「誰よりも私こそ彼女の仲良しになれる。またならねばならぬのだ」という点を分かりやすく説明する。

【解答例】「私」は桜田もいに勝ちたいという競争心を持っている一方で、彼女が自分と同じように貧しい家から附属小学校へ通い、上流階級の子どもよりすぐれた実力を持ってことを認め、自分こそが彼女と仲良くならなければならないと感じていること。

■文章の内容について

物語文の書き方はしばしばみかける「自分の心の実況中継」。主人公の「私（高山）」は本文にもあるように、貧しい家を出自として、「立身出世物語」を耽読する（夢中になって読みふける）ように、生まれながらにしていいとこの同級生を勉学で打ち負かして自信をつけていこうとする中で、同じような出自をもつ女子生徒「桜田もい」が自分の努力を越えるような勉学の才能を持つことへのライバル心をメラメラと燃やしながらも、自分と同様な貧しい家を出自とすることから、彼女を認めていく気持ちが描かれている。

■まとめ

文章を読み進めるごとに、出来事が変わるごとの「私」の気持ちの変化が読み取れれば解答できる！

とても長い文章ですが、強弱がある読みを行うこと、またテーマとして「あるある」の内容であるので、内容の展開はある程度予測はできます。大正時代の文章ということで怖じ気づかず、まずは読む姿勢を強くもって文章に向き合いましょう。日頃から、長めの文章を「集中力」をもって読む習慣があれば、多少長い文章であっても、読み切ることはできます。勝敗はそこになると思われます。

■この1問！

大問1・問6は主人公の気持ちの移り変わりを捉えていけば、まとめられる良問！

問6「敵愾心を燃やしながらも、彼女に拍手を送らずにはいられぬ・・・」とあるが、どういうことですか。

この問いに答えるポイントは、桜田もいへの「敵愾心」というライバル心と「拍手を送る」という彼女を認める気持ちを対比させながら書くところにあります。ライバル心は自分より勉強ができるということ、彼女を認めるというのは貧しい家の出でありながらも、裕福な家の出の他の子を圧倒しているというところ。両者を本文の内容を利用しながら、まとめてみましょう。